

～輝きの子育て～

いちばん大切なこと・・・お母さん、お父さんへ

● 子どもの言葉に耳を澄ませる

子どものことをよく知る一番いい方法は何だと思われますか。それは、子どもとコミュニケーションをとることです。小さいときには、まなざしで語り合い、もう少し大きくなれば言葉を使って語り合えるでしょう。

子どもと話すときには、うわの空で聞いてはいけません。集中して相手になってあげましょう。大事なのは、子どもの言葉を聞くことです。子どもの心が発しているメッセージを聞き取ることがもっと大切です。ただ聞いているだけで、本当はわかっていない、ということもあるのです。それでは子どもと本当に話していることにはなりません。

もう一つ、ネイティブ・アメリカンのことわざをご紹介します。

「話を聞くときには、三度聞く必要がある」

最初は聞く、次に聞くときには意味を理解する、その次には本当に相手の言いたいことを察して受け止めてあげる、というわけです。

子どもとコミュニケーションをとるには、まずよく聞くこと、子どもの言うことに本気で耳を傾けること、そして子どもが真に伝えようとしていることをわかってあげることが必要なのです。

子どもが何も言わなくても、心の中に何か抱えている、くじけてしまっているということもあるでしょう。できるだけ、それに気づいてあげてください。それが子どもに目を向けるということです。そして、気づいたときには、心を開いて話し合ってほしいのです。

子どもは私たち親のすることを見ているだけではなく、私たちが思う以上に私たちが言う言葉を聞いています。だから、私たち親が口にする言葉は、どうすれば一番この子の力になれるか、という心の中の知恵から発した言葉でなくてはなりません。

そして、わたしたち親は、日頃から、子どもの努力を認め、うまくいかないときには、励ましてあげなければなりません。人は分かち合えば、困難な時を乗り越えることができます。喜びは分かち合えば、もっと大きな喜びになるのです。さまざまな感情を分かちあってください。子どもと親が分かちあい、お母さんとお父さんが分かちあうというふうに。

● 「だめ、だめ」といわないで

私たちはつい、子どもに「やめなさい！だめ！いけません！」と言ってしまいます。「いけない、だめ」ということばかり強調してしまうのです。しかし、否定的なことばかり言われると、子どもはやる気をなくしてしまいます。子どもに何かをして欲しいと思った時には、子どもが言われたことをやりたくなるような言い方をしましょう。肯定的な言い方をします。

例えば、「ゲームはやめなさい。晩ごはんよ」と言うかわりに、きちんと時間を知らせる言い方をしましょう。「あと10分すると晩ごはんですからね、もうゲームは片づけましょうね」と言うのです。子どもが言われたとおりにしやすい言い方を考えてあげましょう。何をして欲しいのか、子どもにはっきりと分かるように伝えてください。そうすれば、お子さんは楽に親を喜ばせることができます。

片野 英子